

第8章 環境学習の事業計画

8-1 基本的考え方

上サロベツ湿原ではこれまでも自然観察会等の普及啓発活動が行われてきたが、本計画書に記載した事業の実施にあたり、事業地を新たな環境学習の場として提供・活用していくことが重要です。事業地では、事業の効果を調べるため、継続的に調査を行います。このような調査の一部について、一般市民の参加を募り、自然再生の意義や難しさを考える機会を提供することで、自然再生への関心をもった市民を育むことができるものと考えます。

8-2 調査用木道の有効活用

湿原の自然再生にあたっては、工事の施工及びモニタリング等のため踏み入ることによる湿原植生への影響を軽減するため、必要最小限の範囲で木道を設置する必要があります。落合地区では自然再生事業の管理用施設として既に調査用木道を設置しており、サロベツ原生花園や泥炭採掘跡地等においても、今後事業を実施するにあたり必要に応じて調査用木道を整備する予定です。調査用木道は、国立公園の利用施設でないため一般開放することはできませんが、自然再生の現場に直接触れることができる施設として有効活用することを検討し、自然再生の普及啓発や環境教育、住民参加の促進を図ります。

8-3 環境学習プログラム

自然再生の効果や意義だけでなく、地域の自然のしくみについても学べるような実践型・体験型のプログラムを目指すこととします。

8-3-1 調査体験型プログラム

自然環境調査は、専門性が高く、一般市民のみで取り組むのは難しいですが、専門家の協力を得たり、調査マニュアルを作成したりすることによって、実施が可能です。自然再生事業の評価を自身の手で行うことができるため、高い学習効果が期待できます。具体的なプログラムとしては、以下の調査等が考えられます。

○水抜き水路堰き止め試験地の追跡調査
生育植物種の記録、地下水位の計測・グラフ化

○ササ侵入抑制試験施工地の追跡調査
ササやその他の生育植物種の記録

○ササ生育地の動向調査
ササ生育地境界の記録

○泥炭採掘跡地の試験地の追跡調査
・裸地部における試験地
定点写真撮影、生育植物種とその高さの記録、地表面の高さの記録
・開水面における基盤創出試験地
水面に露出している生育基盤の記録、オオヒシクイの観察



8-3-2 作業体験型プログラム

自然再生の取り組みを実践するプログラムは、参加者の意識を高め、実践的な知識を養う効果が期待できます。しかし、取り組みの中には、機械を用いて実施することが効果的なものや、一般市民が行うには安全上の課題が生じる場合もあるため、プログラムの選定は慎重に行う必要があります。具体的なプログラムとしては、以下の取り組み等が考えられます。

○ササの侵入抑制のための試験施工
表土の剥ぎ取り、剥ぎ取り前後の概況記録

○外来植物の除去作業
外来植物の除去、搬出

